

◆現状と課題認識

- 地域における大学の使命は、地域における新たな価値の創造による新たな文化と雇用の創出である。そのためには、地域の大学は知の拠点としての機能を有し地域で活躍できる人材の育成が重要である。
- しかし、これまで大学の地域との連携は必ずしも十分とは言えず、地域の真のニーズに応えた教育や研究が大学でなされてきたとは言い難い。
- このために本学は、日本におけるデジタルアーカイブの拠点大学として、2013年よりデジタルアーカイブの「知的創造サイクル」を開発し、観光、教育、企業分野での人材育成の試行研究を行ってきた。
- その研究成果として、地域の観光の振興並びに学校教育では有意な学力の向上が認められ、デジタルアーカイブの利活用が新たな価値を創造し、地域活性化や教育の推進に有効との感触を得ている。

◆計画の内容

①「地域資源のオープンデータ化」を実現するためのメタ情報の基礎的研究

- シソーラス、索引語（キーワード）の統一化・共通化が必要である。各デジタルアーカイブにおけるシソーラスを開発する。
- そのために、既に「地域資源デジタルアーカイブ」として、151,191件（2020.2現在）の静止画・資料・動画を収集整理し、メタデータを付記してデータベース化している。

②「地域資源デジタルアーカイブ」を活用した地域の課題の実践的な課題解決の方法の導出

- 「地域資源デジタルアーカイブ」は、単なる記録ではなくて、研究成果、「知」を集積することがデジタルアーカイブに問われている。本学独自の「知的創造サイクル」を構成し、「知識循環型データベース」を再構築する。
- そのために、地域の課題を抽出することから始め、大学の知識を集約して地域資源の「知識循環型デジタルアーカイブ」を再構築し、このデジタルアーカイブを有効的に活用し、地域の課題を実践的な課題解決の方法を導き出す。

③オープンデータ化された地域資源を有効的に活用し、新たな価値を創造するという「知的創造サイクル」の検証

- 「地域資源デジタルアーカイブ」による知の拠点形成は、学生自らが、その地域資源を有効的に活用し、新たな価値を創造するという「知的創造サイクル」を生かして、地域の様々な解の見えない課題に主体的に向き合い、地域課題を解決すると共に、地域に貢献する研究として、地方創成イノベーションの研究を行う。

デジタルアーキビスト  
資格認定機構

本学が中心となり、佐々木正峰先生（元文化庁長官）をはじめ、多くの各界関係者の協力を得て全国規模のデジタルアーキビスト資格認定機構を設立し、すでに全国で約4,000名の有資格者が活躍している。

◆目的

- 本事業は、地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、**岐阜地域の知の拠点となる大学を目指す**ものである。
- 具体的には、地域における地方創成イノベーション計画に呼応し、以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と観光資源について、デジタルアーカイブ研究とそれの利活用を行い、それぞれ**伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘**を行う。
  - (1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興
  - (2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと新たな観光資源の発掘
- 地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し、**デジタルアーカイブによる新たな価値を創造できる人材の養成**を行う。

デジタルアーカイブによる新たな価値創造推進事業

◆事業概要

知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「知的創造サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、**地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備**をする。

このことにより、地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、**伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘並びにデジタルアーカイブによる新たな価値の創造**を行う。

岐阜女子大学地域連携推進委員会

デジタルアーカイブにより新たな価値を創造できる人材の養成

